

霧ヶ峰の登山道状況について

霧ヶ峰自然保護センター

2026. 6. 11

1) 状況

霧ヶ峰は地形が比較的緩やかで登山初心者でも歩きやすいこと、日本百名山のひとつとして挙げられ知名度が高いことから、毎年多くの登山者に歩かれている。その一方、踏圧や雨で土が流され地面が削られて荒れてしまった箇所や、ぬかるみを避けるため登山道以外の場所を歩き、別の道が作られてしまった箇所がある。このような場所は裸地化して植物が生えにくい環境となり、植生が失われ回復に相当な年月を要する。また、登山道が歩きにくくなり転倒やケガにつながる恐れもある。



図1 車山肩から沢渡へ下った登山道



図2 物見岩方面から見た蝶々深山

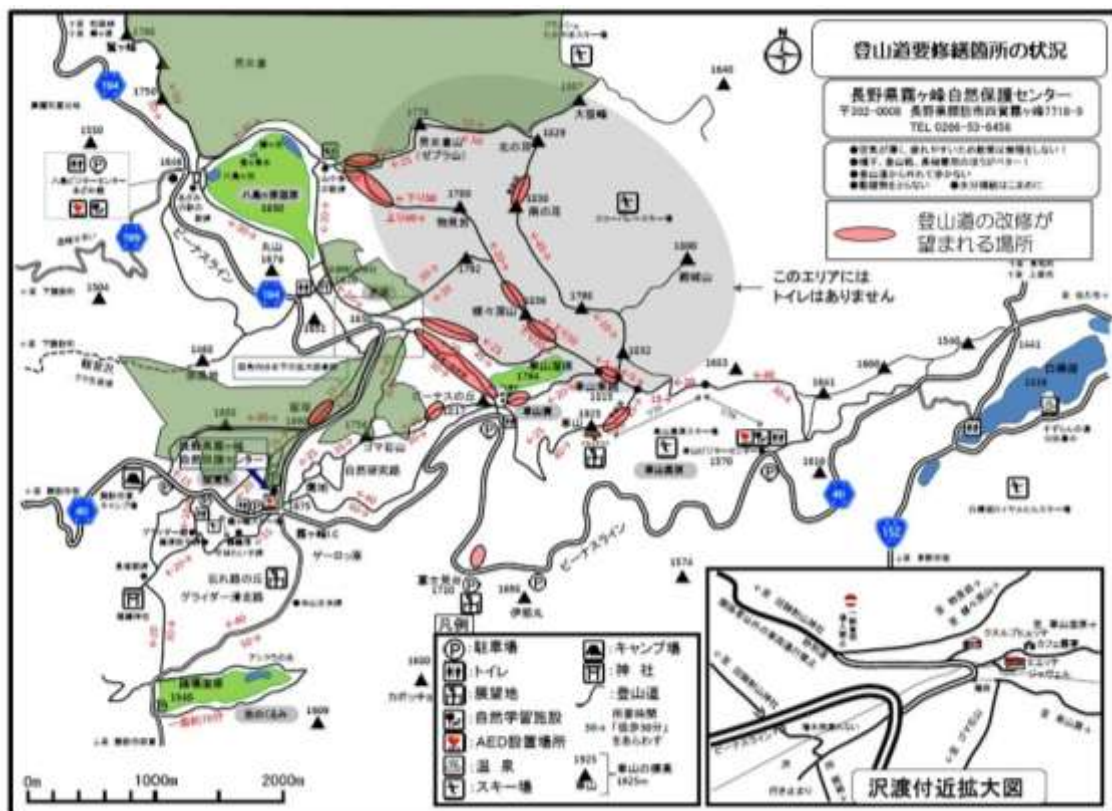


図3 登山道要修繕箇所の状況

2) 対策

近年、本来の自然環境に近づけることを目的に登山道を修復する「近自然工法」と呼ばれる工法が全国的に広がっている。基本的に現地にある木材や石材などを利用し、現場の地形や歩行者がどこを歩くかなどを考察しながら整備する。霧ヶ峰の場合もこのようなやり方で整備をすすめることが望ましい。そこで、作業が可能な場所から徐々に補修することを提案する。

現在、ぬかるみのある箇所に板を置いている場所があるが、奥霧から物見岩に向かう途中の登山道で、降雨後、板が浮いてしまうほど水深が深くなっている所がある。案として、丸太を地面に打ち込み、ぬかるみがある時はそこを通行できるようにしてはどうか。関係者の意見を中心に霧ヶ峰パークボランティアなどと共に補修を行うことを提案する。



図3 降雨後の様子



図4 地面が乾いている時の様子



図5 ぬかるみを避けるためできた道



図6 ぬかるみを避けるためできた道(図5の手前)



図7 位置図



図8 補修イメージ